

居住空間、あり方考え 京都精華大 東急不動産 HD グループ と連携講座

2021年11月9日 毎日新聞@大学



最優秀賞と記念の東急ハンズ商品を受け取るデザイン学部3年の山口萌花さん＝2021年9月30日、京都市左京区の京都精華大で＝学生情報センター提供

京都精華大（京都市左京区）と東急不動産ホールディングス（HD）の中核企業、東急不動産が開設した産学連携講座の成果発表会がこのほど、京都精華大であった。同社が展開し、同HDグループの学生情報センター（ナジック）が管理運営をしている学生レジデンス「CAMPUS VILLAGE（キャンパスヴィレッジ）」を題材に、学生たちが居住空間のあり方を考えた。

学びを社会に生かすことをコンセプトに、2021年度から始まった全学部共通科目「社会実践力育成プログラム」の授業の一つ。企業や地域などと連携し、社会実践力の養成につなげることが狙いだ。

今回の授業には1～4年生の計8人が参加し、対面やオンライン、自宅学習で8月30日～9月14日に取り組んだ。学生たちが理想の住まいや新たなサービスなどを考え、具体化して東急不動産に提案した。授業を担当した南了太准教授（産学連携）は「短期集中だったので学生はしんどかったと思うが、参加したいろいろな学部の人に触発されて、成長につながったと思う」と話した。

キャンパスヴィレッジの共通通貨や、別のキャンパスヴィレッジへの交換留学を提案したデザイン学部3年の山口萌花さん（21）が最優秀賞を獲得。山口さんは「思いついたものを形にするまで精度を上げていく過程で、学べるが多かった。考える方法が分かった」と述べた。